



いしかわ労福協

第 482 号 2008年3月25日

発行所 石川県労働者福祉協議会
発行責任者 上田弘志
編集人 綿 征一
〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号
電話 (076) 231-1737
FAX (076) 231-1731
<http://www.ishikawa-rofukukyo.jp>
info@ishikawa-rofukukyo.jp
毎月1回 25日発行
定 価 一部 20円
昭和39年3月30日 第三種郵便物認可

石川
労福協

「第31回研究集会」「第4回ライフ・サポートセンター代表者会議」 暮らしの総合サポートセンターを研修



石川県労働者福祉協議会の「第31回研究集会」と「第4回ライフ・サポートセンター代表者会議」が2月29日(金)金沢スカイホテルで開催された。

集会には事業団体やライフ・サポートセンター(LSC)、連合石川、退職者連合の役職員ら98名が出席。今回は研究集会と代表者会議を同時に開催したことにより、内容を2008年度石川労福協の重点課題とLSC活動計画・予算についての説明、事業団体からの報告と要請、徳島県労働者福祉協議会理事で連合徳島事務局長の小松義明氏の基調講演「徳島県における労働者福祉運動」の3本立とした。

尚、これに先立ち同ホテルで「第7回LSC事務担当者研修会」を開催。各地域LSCの事務局員が寺西次郎公認会計士より消費税の取扱いについて説明を受けた。また研究集会後、同ホテルで交流会を開催した。



上田理事長



才田専務理事



綿常務理事

研究集会の冒頭、主催者を代表し上田弘志理事長が「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現に向けた労働時間の短縮、割増率・法定最低賃金の引き上げが課題だ！」と今春季生活闘争の重要性を述べ、「石川労福協が目指している無料職業紹介所『ジョブいしかわ(仮称)』を開設し、これまでの福祉なんでも相談・緊急サポート事業と結び付け、勤労

者の生活向上に向けた役割を労福協が担っていきたい」と挨拶した。

引き続き、才田専務理事が「2008年度石川労福協の重点課題」についてパワーポイントで説明。LSC設立から取組んできた各種行事や子育て支援・緊急サポートネットワーク、福祉なんでも相談の経過を話し、新事業となる「ジョブいしかわ」の基本的な考えや事業の概要、システムのイメージ、開設に向けた諸課題を詳しく解説し、「石川労福協・県LSCを『暮らしの総合サポートセンター』と位置付けたい」と述べた。

次に、綿征一常務理事が「2008年度LSC活動計画・予算」について、来年度のグラウンド・ゴルフ中央大会、退職前セミナーの開催内容や労金・全労済・住宅生協の支援活動、県LSCの予算・地域LSC交付金等を説明。会場から、労福協ホームページの充実や労金・全労済・LSCに対する産別や労組の支援について質問・意見が出された。

＝次ページへ





基調講演の
小松講師



休憩後、クレ・サラの取組みにおける『労働組合の対応と留意事項』を今西十曜治・北陸労金主任推進役が、多重債務相談から解決まで事例を挙げて説明。「困ったら、組合＝労金＝司法書士・弁護士の連携で、解決の道を探ろう」と話した。また、『2008年度全労済石川県本部の重点取組み』を水野志郎全労済石川県本部専務理事が、能登半島地震を契機に「全労済の事業活動を職域・地域で積極的に展開し、団塊世代の離退職者への対応をきめ細かく行う」と話し、今年4月の生協法改正と2010年に石川県本部創立50周年を迎えるに当たり「労金住宅ローンと全労済質権の関係は石川県がトップであり、この経験を今後の事業に生かし県本部の業績を充実させたい」と抱負を述べた。

基調講演の小松講師は、徳島県労福協が取組んでいる各種事業を資料に基づき説明。特に就業支援活動の仕事なんでも相談室(雇用就業総合相談室)やジョブとくしま、徳島県若者サポートステーション



今西主任推進役



水野専務理事



橋本副理事長

を詳しく解説し、「12事業を約50名の職員(臨時職員を含む)が約2億5千万円の委託費で行っている」、「自助・共助・公助のバランスを取ってベストミックスで選択。環境変化を認識し、労働者福祉ビジョンを持って運営している」と力強く語り、「これからはリーダーの責任感と組合員の意識の高揚が大切」と結んだ。

最後に、県労福協の橋本和雄副理事長の閉会挨拶で研究集会・代表者会議を終了した。



第7回LSC事務担当者研修会



交流会

第79回 石川県統一メーデー 金沢中央大会は5月1日(木)開催

Ⅱ 第1回常任実行委員会
フレンドパーク石川



「第79回石川県統一メーデー」の第1回常任実行委員会が3月10日(月)、フレンドパーク石川で開かれ、実行委員会の構成や具体的な取組み、メーデー協賛行事、予算などについて協議した。

開催日については、「東京・中央大会」は既に4月26日(土)に決定しているが、「金沢・中央大会」は従来どおり5月1日(木)に決定。県内各地区メーデーも1日に集中開催の予定。

金沢中央大会では例年どおり、記念式典やアトラクション、プラカード・デコレーションコンクール、パレード行進を行う。

メーデー協賛行事

第17回ボウリング大会

日 時 4月29日(祝) 午前・午後の2回
場 所 ジャンボボール

第42回勤労者春季ロードレース

日 時 5月1日(木)午前9時25分頃スタート
場 所 金沢市・中央公園～錦町～厚生年金会館

第8回グラウンドゴルフ大会

日 時 5月21日(水) 9時開会式
場 所 金沢市・大和町広場

第7回勤労者綱引競技大会

日 時 5月25日(日) 9時開会式
場 所 金沢市城西体育館

第14回囲碁・将棋大会

日 時 6月7日(土) 9時30分開会式
場 所 フレンドパーク石川

第19回ふれあいチャリティゴルフ大会

日 時 6月12日(木) 8時より順次スタート
場 所 小松市・ツインフィールズ

第40回石川県勤労者写真サロン・フローラルアート展

期 間 6月5日(木)～8月10日(日)
場 所 金沢・珠洲・美川・根上・加賀・七尾・輪島・小松・松任の9会場

映画鑑賞「シッコ(SICKO)」

日 時 5月1日(木)14時～・18時30分～上映
場 所 石川県教育会館3Fホール
入場料 前売券 300円、当日券 500円

第6回
ネットワーク会議

子育て支援
いしかわ緊急サポートネットワーク

第7回
サポート会員研修会



いしかわ緊急サポートネットワークの「第6回ネットワーク会議」が3月18日(火)、フレンドパーク石川で開かれ、ネットワーク構成団体の石川県、石川労働局(欠席)、金沢市、小松市(欠席)、いしかわ子育て支援財団、連合石川、県退職者連合、県経営者協会、県社会福祉協議会、日本助産師会県支部、県看護協会、事務局(労福協、県LSC)の18名が出席した。

会議に先立ち、主催者で県労福協の上田弘志理事長より挨拶があり、全員自己紹介の後、直江圭祐緊急サポート県センターアドバイザーより平成19年度事業報告を、才田巖専務理事が平成20年度活動計画をそれぞれ提案した。

事業報告では、2月末現在で利用会員374名、サポート会員155名と増加。利用回数526件(月平均47件)、預かった子どもの人数596人(月平均54人)と報告。

主な活動計画は、利用会員500名、サポート会員200名登録を目指し、会員拡大に向けた新聞広告や自治体要請を強化する一方、会員相互の情報交換を目的とした会報(緊サポニュース)の発行を行い、意識の共有化を図ること等を全体で確認した。

質疑では「サポート会員で、サポート経験のない人の理由や意識を継続するための方策を検討すべき」や「利用補助額の充実や補助制度利用者の分析を行うべき」等の意見が出された。

尚、次回の「ネットワーク会議」は平成20年10月開催の予定。

緊サポ・アドバイザー 直江圭祐

いしかわ緊急サポート県センターは2月24(日)午前9時半より、フレンドパーク石川で事業開始後7回目となる「サポート会員研修会」を開催。今回は19名のサポート会員が参加し、熱心に講師の話に耳を傾け理解を深めた。

研修会は、才田巖労福協専務理事が挨拶の中で緊急サポート事業内容を述べた後、講師5名による講義の他、事務局からサポート時の手続きを説明した。

特に、講師の小児科院長から「病児への対応は、まず子どもの安全を守ると共に、手洗いやマスクで自分の身を守ることも大切」と教えられた。また、実技では、救命処置の心肺蘇生法として、心臓マッサージやAED(自動体外式除細動器)の取り扱いも研修した。

最後に、研修者全員に修了証が手渡された。サポート会員はこの後、利用会員との事前面談(マッチング)に臨み、本格的なサポート活動を展開する。

緊サポアドバイザー 直江圭祐



会員募集状況／サポート状況 2月29日現在

地域センター	サポート会員	利用会員	サポート回数
すず	6	5	3 0
わじま	2	8	3 0
ななお	6 (+1)	3	1 0
はくい	1	5	0 0
かほく	12 (+1)	42 (+1)	35 (+8)
かなざわ	86 (+6)	226 (+16)	390 (+71)
はくさん	25 (+1)	55 (+1)	66 (+9)
こまつ・のみ	14	26 (+1)	28 (+3)
かが	3	4	0 0
計	155 (+9)	374 (+19)	526 (+91)

※()は前月比。尚サポート回数は、今年度の総数

中部労福協第39回定期総会 魅力ある世話活動を

中部労福協第39回定期総会が2月21日(木)、名古屋サイプレスガーデンホテルで開催された。

総会には、中部12府県から73名(石川県より6名)が出席し、2007年度の活動総括と2008年度活動方針及び予算が決定された。

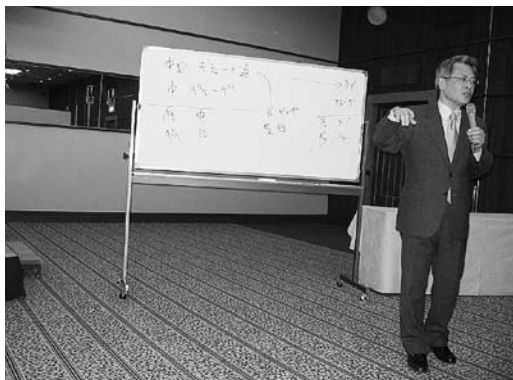
役員改選では、千田喜久治会長・木下照壽事務局長(三重県労福協)体制から山田保夫会長・山本和彦事務局長(大阪労福協)への交代と才田巖副会長らの再任等が承認された。

開会にあたり山本副会長が挨拶し、総会議長に渥美貞志代議員(愛知県労福協)が選出された。総会の冒頭、千田会長が「今、格差が拡大し、社会保障制度が揺らぐ中、労福協は会員中心から未組織・一般市民を含めた活動を展開しなければならない。クレ・サラ、割賦販売法改正を求める署名活動やワンストップサービス(総合生活支援サービス体制)等では、現場の課題を吸い上げ、魅力ある世話活動にすべきであり、今こそ労福協の出番だ!」と述べ、2年間事務局を預かったことに対し「皆様の協力で無事、大阪労福協に手渡せた」と感謝し挨拶を締め括った。

引き続き、来賓の高橋均中央労福協事務局長、神野進連合愛知会長、青木学愛知県産業労働部労政局長がそれぞれ祝辞を述べた。

祝電披露後、木下事務局長が2007年度活動経

恒田研究所代表の記念講演
「テレビでは教えてくれない『食品表示』のうそ? ホント!」



千田前理事長



山田新理事長

過報告及び会計決算報告、宮本久雄監事(富山県労福協)が会計監査報告を行い、それぞれ承認の後、2008年度活動方針(案)並びに予算(案)が提案され満場一致で承認された。尚、石川労福協の綿征一代議員より「能登半島地震への支援御礼と全労済給付状況、地元ライフ・サポートセンター等のボランティア活動について」の報告と「就職支援の取り組み内容と助成金について」の意見を述べた。

2008年度の活動方針では、中央労福協が掲げる重点課題である多重債務・格差・貧困社会の是正や勤労者の暮らしサポート事業の体制づくり(退職者、高齢者との連携・支援活動、福祉相談・就業支援、介護・子育て支援、勤労者福祉サービスセンターの自立と再生に向けた取り組み)の他、事業団体への活動支援・基盤強化の取り組み等を確認した。

新旧役員の千田・旧会長と山田・新会長が挨拶し、最後に才田副会長の閉会挨拶で総会を終了した。

休憩後「テレビでは教えてくれない『食品表示』のうそ? ホント」と題し、テレビ番組「ビートたけしのTVタックル」、「世界一受けたい授業」、「はなまるマーケット」、「クローズアップ現代」等に出演している垣田達哉・消費者問題研究所代表が記念講演した。

事務局日誌

(2月)

- 25日 食・緑・水ネット「アジア・アフリカ支援米・発送式」 金沢市役所前
- 27日 第1回住宅生協対策委員会 フレンドパーク石川
- 〃 さわやかU「第3回あり方検討委員会」 労済会館
- 29日 第31回石川労福協研究集会・第4回LSC代表者会議 金沢スカイホテル
- 〃 LSC書記研修会 金沢スカイホテル
- 〃 金沢勤労者福祉サービスセンター第2回理事会 金沢市役所

(3月)

- 3日 事務局会議 フレンドパーク石川
- 10日 第1回メーデー常任実行委員会 フレンドパーク石川

12日 第9回フレンドパーク石川運営委員会

フレンドパーク石川

13日 第1回地方労福協会議

名古屋市

14日 金沢地域職業訓練センター運営委員会

勤労者プラザ

15日 北陸クレ・サラ・ヤミ金商エローン対策会議

「5周年記念シンポジウム」

金沢歌劇座

18日 第6回緊サポネットワーク会議

フレンドパーク石川

〃 北陸労金県庁出張所「研修会」

金沢市内

24日 第2回石川県医療審議会

石川県庁

– 5 –

地域ライフ・サポートセンターだより

七尾・鹿島

七尾・鹿島LSCは、2月に入り「退職前セミナー」、「緊急サポート会員交流会」、「第5回ふれあいボウリング大会」を盛大に開催した。

七・鹿LSC事務局長 井田孝之

退職前セミナー



「退職前セミナー」は、2月16日(土)13:30より七尾鹿島労働福祉会館3階ホールで59歳を中心に34名が参加し開催された。

内容は、社会保険労務士の講演と退職時の労金・全労済の契約についての説明、個別相談会で構成。開会では、野田昭一LSC会長が「退職後も是非労金・全労済を活用いただきたい」と挨拶した。

続いて、社会保険労務士を派遣頂いた社団法人石川県雇用支援協会の前田弘氏が「5月に七尾市で社会保険のセミナーを開催する予定」など協会の活動を紹介した後、社会保険労務士中谷宗紘氏の講演が始まった。

中谷氏は参加者の半数が公務員であることから、共済年金と厚生年金とを比較しながら、特に「裁定と決定」の違いについて強調された。厚生年金の通知書には「裁定」と記載されており、契約者による申請に基づき決定したということ。つまり厚生年金は「申請という手を挙げなければ社会保険庁は何もしない」ということであり、国家公務員の共済年金の「決定」とは違うと解説した。

講演後の個別相談会では5名が相談に応じ、予定を30分超過し16時に閉会となった。

今回、七尾市の広報に当セミナーを掲載し、全世帯に開催を知らせたため、労働組合以外の参加者も出席した。

緊急サポート会員交流会



2月17日(日)、中能登町のカルチャーセンター飛翔で「緊急サポート会員交流会」を当地域で初めて開催した。七鹿地区ではサポート会員、利用会員ともに登録数が少なく悩んでいたが、最近、新規の登録者があり、交流会を開催するには良いタイミングとなった。意見交換で「保育園の迎え」、「利用の利便性」等の課題が出されたが、ケーキ作りでは、会員同士がお互いの顔を合わすことで安心感が生まれ、利用拡大に繋がりそうな雰囲気となった。

第5回ふれあいボウリング大会



2月23日(土)、クアトロブーム鹿島で「第5回ふれあいボウリング大会」を開催。89名の参加者で会場は貸し切り満杯となり大盛況となった。

今大会は、子供からお年寄りまで幅広い年齢の方々の参加により世代を超えた交流の場となった。

会場で、福祉施設への車イス贈呈募金を募ったところ、多くの参加者から好意が寄せられた。

<大人の部>		
1位	北谷俊一 (七尾市職労)	423
2位	石坂タツコ (一般)	418
3位	宮川武之 (電労火力)	405
<子供の部>		
1位	一花将志	216
2位	甲部優	192
3位	井田龍一郎	191

羽咋

ライフ・プランセミナー

昨年末より年金問題がマスコミなどで騒がれている中、2月24日(日)9時30分



より羽咋市文化会館で、北陸労働金庫石川県本部の大村賢治氏を講師に「ライフ・プラン(年金)セミナー」を開催した。

当日は雪模様となったが、退職間近の11名が参加。年金履歴に空白のある方についての対応を説明した他、再就職者の多い職場の担当者が今後の手続き等について質問した。

今、厚生労働省から年金特別便が発送されているが、自分で確認することを含め、転職された方への説明機会が今後必要と感じた。

羽咋地域LSC事務局長 上田清春

チャリティーボウリング大会

2月25日(月)午後6時30分より、はくいボウルで「チャリティーボウリング大会」を開催



した。1チーム3名で16チームが参加し、団体・個人戦で競技を行った。

メンバーや年1回しかボウリングをしないビギナー等、色々な選手が優勝を目指し奮闘した。

終了後、参加費の一部を羽咋市社会福祉協議会へ寄付した。

今後も会員親睦のため、より多くの参加者が出場するよう継続したい。成績は以下の通り。

羽咋地域LSC事務局長 上田清春

<団体>	
優勝	福井鉾螺労組A
2位	北陸鋳鉄労組
3位	県教組A
<個人>	
優勝	山下佳子(福井鉾螺労組)
2位	森田正秀(県教組)
3位	森田史江(県教組)

輪島・穴水 退職前セミナー



2月2日(土)10時より輪島市労働福祉会館で輪島・穴水LSC主催、県LSC・北陸労金・全労済石川県本部共催の「退職前セミナー」を開催。17名の参加者は、公的年金制度について中谷宗紘社会保険労務士より講義を受けた。

開会にあたり上野正剛会長は「能登半島地震が発生し、この一年間種々の活動を展開したが、この経験を今後に生かしたい」と述べ、また、社団法人石川県雇用支援協会(今回の講師を派遣)の前田弘氏が「60歳の定年から年金が満額もらえる65歳の間をどの様に働くか、また、人生80年と言われる中、60歳以降20年間をどの様に生活するかを考えていただきたい」とそれぞれ挨拶した。

セミナー参加者には、学校の先生が多いことから、共済年金を主とした講演となり、厚生年金との違いなど、細かな説明に参加者は傾きながら聞いた。

講演後、労金・全労済の職員も加わり個別相談会も開催された。

輪島・穴水地域LSC事務局 境 薫

金沢 退職前セミナー



3月9日(日)、労済会館において、金沢地域LSC労済部会主催による「退職前セミナー」が開催された。テーマを「これから始まる年金生活」とし、中谷宗紘社会保険労務士が講演した。

当日は、名古屋マラソンの影響か(?)キャンセルがあったものの、参加者20名から年金や健康保険について多くの質問が出された。

また、北陸労金の鈴木隆史・金沢西支店長と全労済石川県本部の一明政行氏が、退職後の取引継続契約についての説明を行った。

金沢地域LSC事務局長 谷内英明



アグリフォーラム 現地視察・意見交換会



JAアグリライン
石川



「コープ北陸・
県立大学」
共同研究室

県消団連や生協連、婦人団体協議会、PTA連合会、いしかわ農業振興会などで構成する「アグリフォーラムいしかわ」は、安全・安心な食料生産・製造過程等の見学並びに構成団体・会員間の相互理解をより一層深めることを目的とした「現地視察・意見交換会」を3月14日(金)に開催した。

27名の参加者は、金沢市才田町の「石川県金沢食肉流通センター」を皮切りに、同「金沢市水産衛生センター」(魚介残渣で肥料製造)、金沢市専光寺の「JAアグリライン石川」(肥料工場)、白山市の「コープ北陸と県立大学」の共同研究室(残留農薬検査・バイオ研究・I-Bird)を視察し担当職員と意見を交わした。

県消団連 「米消費拡大料理教室」 野菜たっぷり、からだにやさしい料理



石川県消団連は2月12日(火)、金沢勤労者プラザ料理実習室で米消費拡大を目的に「野菜たっぷり、からだにやさしい料理」と題し、野村淳子管理栄養士を

講師に料理教室を開催した。

消団連の各団体から男性6名を含む32名が参加し、「ちまき風」、「五目みそ汁」、「かぼちゃの洋風旨煮」の3品を実習した。

「ちまき風」はうるち米ともち米に具を混ぜ、蒸し器で30分程度蒸す。「かぼちゃの洋風旨煮」はお砂糖を使わずカレー粉を使う。両品ともに、メタボ対策としての献立であり、カロリーが低く、塩分控えめ、野菜もたっぷり入り好評だった。

参加者からは「環境、体に良い



料理で、手づくりの大切さを実感した」、「ちまきが最高でした!家でも作ってみます」、「かぼちゃの煮つけは砂糖を使わず、意外な調味料を使い美味しかった」、「美味しく、カロリーも低く良かった」との感想が聞かれた。

石川県消費者団体連絡会事務局長
表 重雄

「北陸クレ・サラ、ヤミ金 商エローン対策会議」 5周年記念シンポジウム

上田理事長



喜成代表幹事



北陸クレ・サラ、ヤミ金、商エローン対策会議の「5周年記念シンポジウム」が3月15日(土)金沢歌劇座で開催され、労福協事業団体や連合石川、NPO法人あすなろ会、司法書士会などから約150名が参加した。

シンポジウムの冒頭、喜成清重代表幹事(司法書士)が「わが国の消費者行政を真に国民のものとするために、消費者問題全般の法律案、政策実施を一元的に行う消費者庁を設置すべき」と挨拶した。

来賓の上田弘志石川労福協理事長(連合石川会長)らが挨拶した後、福井県自殺・ストレス防止対策協議会委員の茂 有幹夫氏が記念講演した。

元警察官の茂氏は「30年間で635名の自殺者が出る福井県の東尋坊で自殺志願者の支援に取り組んでいるが、観光イメージが悪くなるから活動をやめてくれ」と言われたことに対し、「人間の命を何とと思っているのか!」と怒り、「生活保護家族の厳しい現状では自殺者が多発する。弱者救済活動が重要」と訴えた。

休憩後の『リーダー達のリレートーク』は、新里宏二弁護士が「貸金業法成立に伴う成果と今後の課



題」、山田治彦弁護士が「行政の多重債務対策の充実を求める全国会議の活動」、稲本信広司法書士が「全国青年司法書士協議会の取組み」、井口鈴子司法書士が「高金利引き下げ・多重債務対策全国会議の取組み」をそれぞれ報告。澤口宣男全国クレジット・サラ金被害者連絡協議会会長と田中祥晃大阪いちょうの会事務局長が活動状況を述べた。また、大山小夜金城学院大学准教授が「台湾の多重債務問題とその対策」を話した。

最後に、木村達也弁護士が「これまで行政との連携で、多重債務者救済等に一定の成果があった」とまとめ、今後「反貧困運動への参加や消費者庁の設置運動を展開しよう」と結んだ。

尚、中央労福協が協力する『2008反貧困全国キャラバン』が9月4～8日の間、石川県で街頭宣伝や自治体要請、集会、相談会等を行うことが報告された。



「食・緑・水ネット」 アジア・アフリカ支援米発送式

2月25日(月)、金沢市役所前広場において「食とみどり、水を守るいしかわネットワーク」主催による、アジア・アフリカ支援米発送式が行われた。

式には、連合石川や県労福協、民主党石川、社民党石川、マスコミ関係者など約50名が出席。冒頭、上田弘志代表が「今、世界中で多くの子どもたちが飢えなどで死亡している」と訴え、1996年から続く支援活動に対し「取組む仲間の皆さんに感謝すると共に、発送費用等のカンパをお願いする」と述べ、顧問代理の栗森慨・山本ゆきこ金沢市議会議員が世界の飢餓の現状やボランティア精神の大切さを訴えた。

星野貴男事務局長が「食・緑・水ネット」の取組



みを報告し、耕作者代表の山本英一さん(金沢市)が挨拶した後、お米をトラックに積み込んだ。

今回発送するお米は金沢・小松・七尾市で地域の子供たちが作付けし、農家の方が日常管理して収穫されたもの。支援米は、アフリカのマリ共和国へ840kg、カンボジアへ1,140kg発送。船便と陸送で現地には5月頃の到着予定。現地では貧困層の子どもや妊婦などに配られる。

「食・緑・水ネット」事務局長 星野貴男